

日本岩石鉱物鉱床学会 渡邊萬次郎賞 第23回受賞者

柴田 賢 会員

柴田 賢会員は放射性同位体年代学分野で活躍し、日本列島の地体構造論の基本骨格の確立に非常に大きな貢献された。日本列島の詳細な地質図は、1960年頃までにはほぼ出来上がっていたが、花崗岩や広域変成岩の年代は地質学的観察に基づく間接的なものでしかなかった。しかし、放射年代測定原理が確立すると間もなく、年代測定の技術が向上し、日本でも欧米先進国とほぼ同時期に、日本列島の花崗岩、広域変成岩の K-Ar 年代や Rb-Sr アイソクロン年代が測定されるようになった。

柴田会員は J.A. Miller とともに、1961年から日本列島の花崗岩や変成岩の放射年代の測定を開始して、日本のこの分野の指導的役割を果たした。そして地質調査所退官の 1993年まで、放射性同位体年代学の第一人者として日本列島の同位体年代の測定を継続した。柴田会員の業績は大きく次の4つにまとめられる。(1) 日本列島の花崗岩と広域変成岩の同位体年代の確立、(2) 日本列島最古の変成岩、上麻生礫岩の変成岩礫の発見、(3) 白亜紀花崗岩 Sr 同位体組成の帯状構造の発見、及び(4) 西南日本内帯の低温高圧型変成帯の帯状区分(西村祐二郎氏との共同研究)。

1980年代後半になると、K-Ar 年代の大量迅速分析法が確立され、微化石年代と付加地質学を組み合わせることで、プレートテクトニクスに基づく日本列島の地体構造論は大きく発展した。日本列島の造山運動論は、今日、太平洋型造山運動として世界の教科書に採用されるに至っているが、そのような一般化の基盤を作る上で、柴田会員が放射年代測定で果たした役割は大きい。

柴田会員は、また、日本学術会議地質年代学小委員会委員長(1972-1981)として国際層位学委員会地質年代学委員会(SOG)と密接に関わり壊変定数の統一に協力した。SOGの日本代表委員であった柴田会員は国際地質年代学・宇宙年代学・同位体地学会議の日本での開催(1982年日光)を実現させ、日本における地質年代学の発展にも大いに貢献した。

以上のような功績にもとづき、ここに柴田 賢会員を渡邊萬次郎賞第23回受賞者として推薦する。

柴田 賢会員の略歴

1932年(昭和7年) 8月27日生まれ
 1955年(昭和30年) 名古屋大学理学部地球科学科卒業
 1955年(昭和30年) 名古屋大学大学院理学研究科地球科学専攻課程入学
 1956年(昭和31年) 同課程中退
 1956年(昭和31年) 通商産業省工業技術院地質調査所燃料部石油課
 1959年(昭和34年) " 技術部地球化学課
 1967年(昭和42年) 理学博士(名古屋大学)
 1978年(昭和53年) 通商産業省工業技術院地質調査所
 技術部地球化学課長
 1983年(昭和58年) 日本地質学会賞受賞
 1988年(昭和63年) 通商産業省工業技術院地質調査所首席研究官
 1988年(昭和63年) 工業技術院長表彰
 1989年(平成元年) 通商産業省工業技術院地質調査所地殻化学部長
 1992年(平成4年) " 地殻化学部主任研究官
 1993年(平成5年) 名古屋大学理学部教授
 1993年(平成5年) 日本地質学会小藤賞(共同)受賞
 1994年(平成6年) 名古屋大学年代測定資料研究センター長併任
 1996年(平成8年) 名古屋大学停年退官
 1996年(平成8年) 名古屋文理短期大学教授、情報処理学科長
 1999年(平成11年) 同図書館長(同年9月まで)
 1999年(平成11年) 名古屋文理大学情報文化学部教授
 2002年(平成14年) 叙勲、勲三等瑞宝章
 2003年(平成15年) 名古屋文理大学定年退職

日本岩石鉱物鉱床学会
 渡邊萬次郎賞審査委員会
 委員長 小畑 正明